

【ローマ人への手紙7章】

「私は本当にみじめな人間です。誰がこの死のからだから、私を救い出してくれるのでしょうか。」(ローマ7:24)

“逆転の勝利者、誌に出る予定の原稿ですが、このような抜粋があります。

「君はどのように救われたの？」とある少年に聞きました。彼は「神様は神様の、僕は僕の役割を果たしました。」と答えました。更に質問しているうちに「神様の役割は救うこと、僕は罪を犯すことでした。悪い心と反抗的足で、神様から逃げました。でも神様はどこまでも追いかけて来て、遂に僕を捕まえてしまいました。」

15節～ 私には、自分のしていることが分かりません。私は自分がしたいと思うことをしているのではなく、自分が憎むことを行っているからです。～それを行っているのはもはや私ではなく、私のうちに住み着いている罪なのです。～私は自分でしたいと思う善を行わないで、かえって、したくない悪を行っています。

私は本当にみじめな人間です。誰がこの死のからだから、私を救い出してくれるのでしょうか。私達の主イエス・キリストゆえに、ただ神に感謝します。

パウロは自分に深く根ざしている罪の性質を認め、それが罪を犯させるのだと意識していました。

この章でパウロは、律法と罪との問題を解き、この罪は律法という光に照らされなければわからないと言っています。誰でもしていることじゃあないか。他人に見つからないからいい。こんなことは仕方ないよと思ってしまいがちですが、きよい神様の前に立たなければ、人間の持つ罪の本当の怖さを知ることが出来ません。ここに、多くの宗教があるのですが、なぜキリスト教(イエス・キリストを通して)でなければ救われないかという答えがあります。罪を理解していても、罪の意識がないのは、律法がないからです。自分が罪人であることを知り、震え上がるほど恐れおののく時に、イエス・キリストの犠牲の愛が深く深く分かります。「この方以外には誰によっても救いはありません。」(使徒4:12)

私が本当にみじめな人間であるとわかるのは、本当に大きな人生の転換期なのです。罪の中に閉じ込められていた私達が、イエスのみ名によって解放され、自由にされました。もはや自分では生きていけないからこそ、主イエス・キリストと共に歩む人生、主に聞き従う人生があります。それは恵みであり、憐れみの人生です。

宣教の第2ステージと語られて、まずザンビアにチームが行き、次にマレーシアにチームが派遣されました。ここでも要所要所において、主のみ名による霊の戦いが行われ、神の言葉が置かれてきました。これから、アジア圏やイスラム圏等に神様の働きがどんなに進められてくることでしょう！主に期待して共に祈っていきましょう。

* 皆様のお手荷物・貴重品等には十分ご注意下さい。
教会内での紛失や盗難等については一切責任を負いかねます。



TLCCC FRH

天に登録されている長子たちの教会

Church of the **F**irstborn who are **R**egistered in **H**eaven

主任牧師:イエス・キリスト

牧師:ダニエル大重

SHILOAM

【シロアム：遣わされた者】

2011.10.16 No.653

今年のみ言葉 歴代士Ⅱ 20:14～22 特に15節
「あなたがたはこのおびたしい大軍のゆえに恐れてはならない。
氣落ししてはならない。
この戦いはあなた方の戦いではなく、神の戦いであるから。」



KLタワーから

(クアランブール通信塔世界第4位 421m)

主の十字架クリスチャンセンター(TLCCC)

The Lord's Cross Christian Center

<http://astone-blog.jp/tlccfrh/>